



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2011年6月-7月号
Vol.20

支援者の皆様へ

この時のために、、、

支援者の皆様、こんにちは。いつもお祈り、ご支援を心から感謝します。昨年9月のFVI立ち上げから半年が経過し、様々なことが形をなし、働きが「成立」しはじめた3月、東日本大震災が発生しました。

福島県での支援活動を開始してから私たちは、もしかしたら神様は「このような時のために」FVIを立ち上げさせてくださったのかもしれない、と思うようになりました。私たち3名がFVIを立ち上げるのがもう少し

遅かったら、今福島で活動しているような活動は出来なかつたろうからです。震災が3月11日に起こりました。3月5日に神田師が南アフリカから、3月10日に柳沢氏がインドから、3月17日に私がエチオピアから日本に戻ってきました。このタイミングにも神様の摂理を感じます。

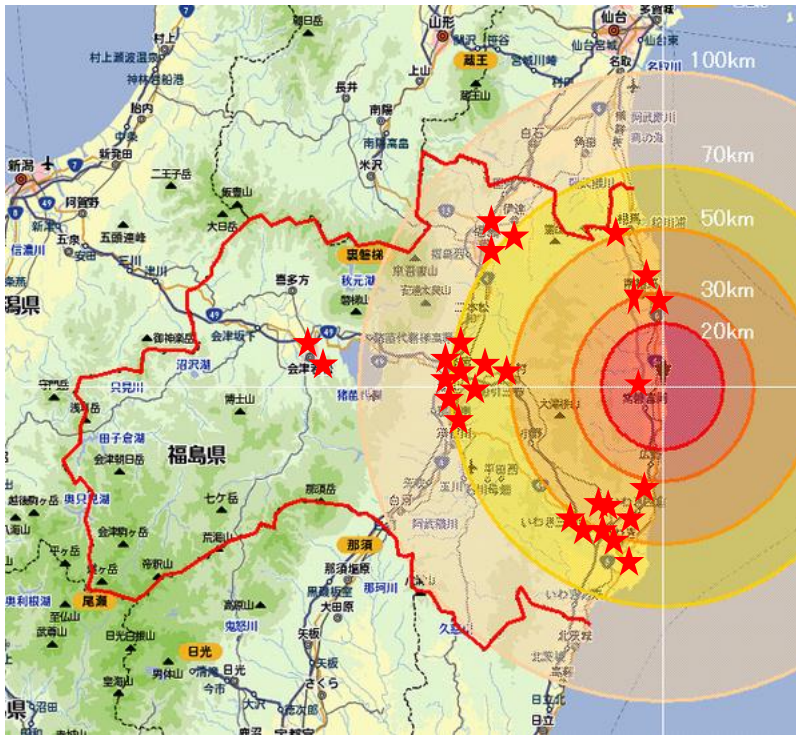
「もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」 エステル記4:14

注) 旧約聖書の記述。ユダヤ人を殲滅させるとの王の命令が發布されたときに、王妃であったエステルに義父のモルデカイが言った言葉。

FVIの福島訪問と活動

これまで(～6月14日迄)FVIは6回福島を訪問させていただき、福島第一原発を中心とする半径20キロ～80キロ圏内の合計28カ所の教会を複数回訪ね、教会が地域社会に仕えるということのために協力させていただける可能性を探ってきました。(次ページ図、表)





訪問させていただいた教会

- いわき市 9 教会
- 郡山市 7 教会
- 福島市 3 教会
- 相馬市 1 教会
- 南相馬市 3 教会
- 会津若松市 2 教会
- 須賀川市 1 教会
- 田村郡 1 教会
- 双葉郡 1 教会（*福島第一聖書バプテスト教会：4月に、避難先の東京奥多摩福音の家を訪問）

福島の震災被害は地震、津波の被害に加え、原発事故に伴う放射能汚染の恐怖、さらにはそれに伴う風評被害による経済的な打撃という他に例を見ないものです。私たちが初めていわき市を訪れた3月末の時点のいわき市はゴーストタウンでした。35万人の人口のうち15万人以上が市外に退去し、ガソリンの順番を待つ列は数キロに及び給油までに8時間かかりました。また35ある教会の牧師のうち9割は市外に避難している、と聞きました。コンビニもスーパーもシャッターを下ろし、ガソリンの列を除くと街には人の気配がありませんでした。

現在、いわき市には活気が戻ってきています。当初市外に避難した人々は戻ってきており、殆ど全ての店は通常営業に戻っています。電気、ガス、水道などのライフラインも復旧しています。しかし、そこは「前と同じいわき市」ではありません。小学校では約1割の生徒が市外に転校していき、市内の公共施設には20キロ圏内の避難指示区域からの避難者および津波で家を失った方々が避難生活を送っています。いわき市のビジネスホテルには原発で働く作業者が多く宿泊しています。目には見えない不安がいわき市、そして福島県を覆っています。多くの方が職を失い、母親たちはここで子供を本当に育てて良いのか悩んでいます。放射能汚染によって、土地と農業、水域と漁業の先行きは不透明です。

私たちが福島で出会った多くの方々から聞いた言葉を思い出しながら、私たちに出来ることは何か、考え祈らされてきました。私たちに「名案」や「分かり易い解決」はありません。今は福島に住む方々と一緒に悩み頭を抱えることが、いま私たちに出来る最大のことであるように感じています。そのような中でも、私たちなりの「小さな貢献」として2つの具体的活動を計画、実行させていただいています。

講演会「放射能と食品の安全」

6月1日に郡山市で、6月11日にいわき市で、現地の方々との共催で講演会「放射能と食品の安全性」を開催させていただきました。福島の方々の放射能のリスクに関する情報のニーズは切実です。奥歯に物が詰まったような「発表」を繰り返す東京電力と中央政府に対する不信感は根強く、一方で刺激的で過激な発言がインターネットには散見されます。「全く問題ない」のか「今すぐにもでも引っ越した方がよい」のか、情報は両極端に揺れており、議論に専門家が加わっていないため不安は限りなく増幅される、

という悪循環が起こっています。

柳沢氏の教会、高座教会会員である鈴木直之氏は、日本政府の技術参与として、自らチェルノブイリで復旧作業にあたったことがあり、その経験と知識に基づき放射能のリスクと特性について講演を行ってきました。鈴木氏の講演の後には参加者から多くの質問が投げかけられ、殆どの人は「少なくとも放射能がこういうものだ、と分かった」ということによる安心をしておられました。7月には同じような講演会が福島市でも予定されています。



福島未来会議

7月25～28日に、日本ローザンヌ委員会の後援を得、FVI主催で福島県磐梯熱海において「福島未来会議」を開催します。福島県内で地域に仕え奮闘している牧師や教会リーダー25名が参加する「2050年の福島」の夢を描くための励ましの集いです。

6回の訪問を通して出会った現地で地域の方々に仕えている教会や地域のリーダーたちの姿は、まさに私たちが啓発してきた隣人を愛するという「小さな愛の種を蒔く」姿そのものでした。活動を通して愛の出所であるイエス様に出会い信仰を持たれた方の話を多く伺いました。いくつかの教会とNPOに、国内外から心ある方々が預けてくださった「震災支援指定」の献金の一部をお届けし、そのような草の根の活動を支援しました。

しかし一方で、本当の意味でインパクトが包括的であるためには、小さな愛の行動の積み上げ、つまり個々の生き方の変革とは別に「何か」が必要かもしれない、と思わされるようになりました。ビジネス、農林水産業、エネルギー、子育てなど、社会のあらゆるセクターが包括的に打撃を受けている福島において、「構造的な変革（または創造）」が必要なのではないか、という意見が多く「現場で活動するリーダーたち」の口から聞かれました。新たな地域創生という漠然とした政府の音頭に対し、どのように応答してよいか自治体を含めた地元は困惑しているようです。このような時こそ「イエスの教えに従う者たち」が地域のために発言、行動し、街づくりを提言していくことが求められていると信じます。

私たちFVIに「答え」はありませんが、福島で実際に地域に仕えている方々の中には多くの「夢という資源」が与えられているように感じました。それらのアイデアを、教会や教団、教派、という横糸を貫いて「福島に仕え、福島の未来を夢見る」という共通項で括るような場所を提供したときに、何か「化学変化」が起こるのではないかと、というのが私たちの期待です。FVIはスタッフを「カタリスト（触媒）」と位置付けてきました。自分たちが大きな組織を作って社会奉仕をするのではなく、人々の中にある能力や可能性を引出し、橋をかけることでシナジー（相乗効果）が生まれることを期待しています。

福島未来会議の主要な目的は以下の3つです。

- 震災以降まとまった休息を取っていない、現地で奉仕しているリーダーの方々が休みを取る。
- リラックスした雰囲気の中で福島の未来についてのビジョンを、神から受け取る。
- 参加者間で、お互いの強みを活かして協力できるような「フォーマルでない協力関係」が構築される。

参加者が「神からのビジョン」を受け取り福島に神の御心を現していく一助になることができるようにお祈りくださると幸いです。

紹介したい「神の国のチームメイト」

ギザチュウ・アヤム氏 (NGO創設者 アジスアベバ在住)



NGOの創始者たち。右から2番目がギザチュウ

ギザチュウ氏は現在 33 歳、私と同じ年齢です。皆様に祈られ 3 月にエチオピアに行かせていただきましたが、ギザチュウ氏との出会いは神様が与えてくださった素晴らしい出会いでした。互いに勇気を与えられ、同じ世代の信仰者として鼓舞されるような素晴らしい時間を持つことが出来ました。

アジスアベバに生まれたギザチュウ氏は、小さなころからメカニイエズス教会という教会に出席していました。F V I のパートナー団体である Harvest Ethiopia のデメレシュ氏は、アジスキダン

教会の教師でもあり、教会学校で教えていました。デメレシュ氏との出会いがギザチュウの人生を変えます。デメレシュ氏はギザチュウはじめ教会学校の生徒らに、「イエス様に従うとは、ただ礼拝に出て聖書を読んで祈ることではない。イエス様がそうされたように、最も弱い人のところに行ってその人に仕えることなんだ。」と教え励まし続けました。ギザチュウにとっての「キリスト者の標準」がそこで形成されました。

17 歳のとき、教会学校の幼馴染 10 名と共に、ギザチュウは街に繰り出しました。自分たちにとっての「最も弱い人」とは、アジスアベバのスラム街にいるストリートチルドレンだ、と考えたからです。ギザチュウと仲間たちは路上生活をしている子供たちに声をかけ、教会に招きました。彼らは自分たちの小遣いで買ったバナナを子供たちに振る舞い、「お兄さん」のように関わりを持ち始めました。

教会の人々は「教会の治安が乱れる」との懸念から反対しましたが、デメレシュ氏は一貫してギザチュウを応援し教会に説明し、とりなし、かばいました。彼らは Hope for Children Ethiopia という NGO を立ち上げ、ある時から場所を借りて少年たちが寝泊まり出来るシェルターハウスを提供しました。彼らは子供たちに読み書きを教え、手に職をつける訓練を施し、妊娠した十代の女の子の出産、育児を助け、麻薬や売春から子供たちを守りました。

現在人口 300 万人のアジスアベバには 10 万人以上のストリートチルドレンがいるといわれています。その問題の根は、「アジスアベバに行けば幸せになれる」という幻想が田舎にあることと、都会の「搾取の構造」にあるとギザチュウは言います。

例えばアジスアベバ市内の、23カバリー（行政区）はスラムですが、そこに住む住人の大半はチェンチャという田舎からアジスアベバに移住してきた労働者たちです。ここに住む人々の生活は貧しく、犯罪や麻薬がはびこっています。10代前半の女の子は朝から山に行き、50キロ以上もある木々を運んでくるという重労働をさせられます。繁華街で売春を始める女の子たちもいます。10代の男の子たちは街の近くに住む商売人の所有する工場で、朝から晩まで布を作る作業をさせられます。いずれも賃金は非常に低く、労働時間は16時間を超えることもあります。そのような子供たちは教育の機会を得ることができず、「より良い未来」を描くことが不可能になっていきます。児童労働はエチオピアの法律で禁止されていますが、行政官は片目をつぶって見逃している、または件数が多すぎていたちごっこになり、制御できていない状態です。

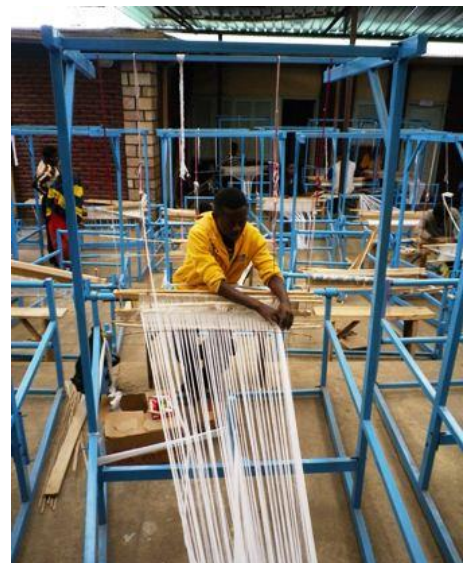
ギザチュウたちはこのカバリーで以下のような活動をしています。

- 子供たちに教育の機会を設けるための幼稚園および小学校教育。
- シェルターハウスでの共同生活と職業訓練。
- 子供たちを田舎のチェンチャに返し、両親と和解させ「アジスに行っても幸せになれるわけではない」という啓発活動
- コーヒーセレモニーでの啓発活動（HIV エイズ予防など）

2011年中に、チェンチャにギザチュウたちのセンター建設が完了する予定です。ここでは「問題の根」である大都市幻想からの脱却と、田舎で雇用を生み出すことを目的として活動をしていく予定です。

彼らは今も毎晩スラム街にチームで赴き、ストリートチルドレンにひとりひとり声を掛ける、という地道な活動を続けています。また、彼らが数年前に行った「メルカート（スラムのひとつ）」での清掃活動は、アジスアベバの歴史始まって以来の、民間のエチオピア人による自発的な清掃活動だったそうです。このような彼らの働きに心動かされる国内外の支援者が少しずつ与えられ、彼らの働きは、現在年間予算 200 万ドルを超え、スタッフは 100 名以上に成長し、受益者は数千名に上るようになりました。彼らの取り組みは、昨年現地の NGO の優秀な取り組みとして、スウェーデンの国際機関から表彰されました。

このすべての働きは 17 年前、10 名のティーンエイジャーのポケットにあった 2 ドルの小銭から始まりました。「小さな信仰の種」を、いかにして神様が成長させ、社会を変革してくださるか、ということのひとつのモデルを見させていただき、その主体が自分と同世代の若者たちであることに、私は大きな励ましを受けました。今後 F V I の海外パートナーとして、彼の働きをサポートし、日本の若者が彼から学ぶことが出来るような機会を提供していきたいと考えています。



シェルターハウスでの職業訓練

活動報告

奉仕と活動（4月～6月前半）

皆様の祈りに支えられ以下の場所で奉仕させていただきました。関係した方々に感謝いたします。

月日	内容	場所
4月3日	ニューライフバプテスト教会セミナー	横浜市
4月18～22日、25～27日	第2回、3回震災支援活動	福島県各地
4月30日～5月1日	ビジョン・カンファレンス	愛知県蒲郡市
5月1日	礼拝での活動報告	信愛キリスト教会（豊川市）
5月7日	セレブレーションメッセージ／セミナー	L J H C N（横浜市）
5月17～22日	第4回震災支援活動	福島県各地
5月25日	キリスト教教育 特別講演会	関東学院高等学校（横浜市）
6月5日	地域変革セミナー	長野県伊那市
6月10日	日本バプテスト連合・「シオンの集い」講演	さいたま市
継続的に	全人宣教フォローアップと励まし	練馬など国内各地

祈りの課題

- ◇福島県で、中期、長期にわたり神が望まれるような働きをすることが出来るように。
- ◇F V I のチームワークのため。互いの良さが活かされ、相乗効果が生まれるように。
- ◇良い出会いが与えられるように。

今後の予定

月日	内容	場所
～9月30日（断続的に訪問）	東日本大震災支援活動	福島県
6月第14～23日	DNAリーダー会議	アリゾナ（アメリカ）
6月26日	礼拝説教	練馬グレースチャペル
7月1日	鈴木直之氏講演会「放射能と食品」	福島市
7月16日	「隣人を愛する習慣作り」セミナー	カンバーランド高座教会（神奈川県）
8月5～8日	聖協団中高生キャンプ	長野県
8月29日	F V I 総会	本郷台キリスト教会（横浜市）
随時継続的に	国内啓発活動およびフォローアップ	国内各地

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」

Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援にご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-9-1889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

*ブログから Prayer Letter をダウンロードくださった方で、振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。振込用紙、ご案内を送らせていただきます。

*2カ月に一度、プレイヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。

*Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。